F成26年度 日米共同方面隊指揮所演習を支えた隊員たち AMA SAKURA 67

平成26年12月2日から12月15日まで、陸上自衛隊朝霞駐屯地で「平成26年度 日米共同方面隊指揮所演習」が行われた。陸自側 は、統制官に陸上幕僚長 岩田清文陸将、部隊指揮官に東部方面総監 磯部晃一陸将。米軍側は統制官に米太平洋陸軍司令官 ビンセ ント・K・ブルックス大将、部隊指揮官に第1軍団長 スティーブン・R・ランザ中将。参加人数は自衛隊約4500名、米軍約2000名 という陸上自衛隊最大規模の日米共同訓練だった。演習は、前半に「機能別訓練」、後半に5夜6日にわたる「総合訓練」を行った。また、準 備訓練があって本番があるのではなく、年度を通じた訓練の積み重ねが YS 訓練であるとの認識から25年度の3月から調整・訓練を 行ってきた。(詳細は、防衛ホーム平成26年12月15日号・平成27年1月1日号参照)

統裁部等は、企画統裁部・AAR部・研修対応広報部・警備保全部・監理部・メンター付等に分かれていて、各部がYS-67の成功

11月上旬、YS-67が行われる朝霞駐屯地に足を踏み入れてみると、平素は見ることのできない英語のバス停や案内板、駐屯地の中 は米軍の人々が行き交っていた。そして、北グランドは200張を越える天幕で埋め尽くされている。その天幕の美しい並び、芸術的な側 溝…。いつもはない場所にストーブや柱・電柱が立っている。今回は、違う角度で YS-67を観てみた。

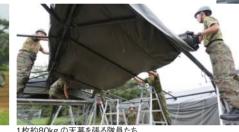


が担当。8月19日から1月23日の撤収完 了まで東方部隊のほぼ全部の部隊から



共同調整所になる天幕設営のため、まずは測量から。測量するために斜めに杭を打ち込むのは、かなりの技術が必要





















企画統制部の中にある「統裁通 信課」が担当。東方通信群を主体とした通信課部隊等からの応援









有線構成 指揮所演習の命





朝霞管理施設隊が担当。方面内の空きベットを集め、米軍のベッドを心を込め























